

胸部R線立體撮影法ニ依ル肺臟所見ノ研究

第7報 慢性肺結核篇

金澤醫科大學大里内科教室(主任大里教授)

助手 田 中 溥 之

Hiroyuki Tanaka

(昭和16年8月30日受附 特別掲載)

内 容 抄 録

我大里内科入院及び外来患者中、慢性肺結核ニ該當スル者ニレ線立體寫眞撮影ヲ行ヒ種々檢索ノ結果、慢性肺結核ニ於テハ陰影ヲ四大別スルヲ得。之等ハ大體Aハ乾酪性、Bハ滲出性、Cハ増殖性、Dハ硬化性ニ夫々相當スル如ク察セラレ、各陰影ノ肺門部トノ關係ヲ見レバ、關係著明ナル者極メテ多數ニシテ、又之等ヲ陰影種類別ニ見ル時ハ、新鮮ト思推セララルルBニ包含セシメ得ル陰影ニ殊ニ著明ナリ。更ニ以上ノ關係ヲ空洞ノ有無ニ就キ觀察スルニ空洞性肺結核ニ屬スル者亦關係著明ナル者多數ヲ認メラル。次ニ立體寫眞觀察ニ依ル陰影ノ種類ト種々ナル臨床的所見トノ關係ヲ觀察セルニ、赤沈反應トノ間ニハ正ノ相關ノ存在ヲ認メ、又他ノ所見ヨリモ綜合考察スルニA→B→C→Dノ

順序ニ良性化スルモノノ如ク推察サル。

空洞ニ就キテノ觀察ニ依レバ、肺層中心部ニ於ケル前額位平面ヨリ背側ノ方ニ存在スルモノ極メテ多ク、又空洞ト肺門部トノ關係ハ著明ナル者多數ナルヲ認メシム。

慢性肺結核ノ立體寫眞例152例中、同時ニ普通寫眞ヲ撮影セル者94例ニシテ、之等ニ於テ兩者所見ノ比較ヲ行フニ所見一致セル者47例、一致セザル者47例ニシテ其ノ數ハ何レモ相半バセリ。最後ニ慢性肺結核ノ立體寫眞解説ノ例トシテ非空洞性肺結核ノ1例、及び剖見ノ機會ヲ得タル空洞性肺結核ノ1例ニ就キ記載ヲ施シ參考ニ供シタリ。

目 次

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 第1章 緒言 | 第1項 陰影單一ナル肺結核症例ニ就テ |
| 第2章 研究方法 | 第2項 異種陰影混在セル肺結核症例ニ就テ |
| 第3章 立體寫眞ヨリ觀タル陰影ノ種類ニ就テ | 第4節 陰影種類ト體溫トノ關係 |
| 第4章 陰影ノ種類ヨリ觀タル普通慢性肺結核 | 第5節 陰影種類ト喀痰中結核菌トノ關係 |
| 第5章 立體寫眞ヨリ觀タル陰影ノ檢討 | 第6章 慢性肺結核ニ於ケル空洞ニ就テ |
| 第1節 各種陰影ノ位置的關係ニ就テ | 第1節 空洞周圍ニ於ケル陰影ニ就テ |
| 第2節 陰影ト肺門部トノ關係 | 第2節 空洞ノ位置ニ就テ |
| 第1項 陰影種類ト肺門部トノ關係ニ就テ | 第3節 空洞ト肺門部トノ關係 |
| 第2項 空洞ノ有無ヨリ觀タル陰影ト肺門部トノ關係 | 第4節 主トシテ空洞ニ於ケル普通立體兩寫眞觀察ノ比較 |
| 第3項 陰影ト肺門部トノ關係ニ於ケル左右觀 | 第7章 症例解説例 |
| 第3節 陰影ト赤沈反應トノ關係 | 第8章 總括並ニ結論 |

第1章 緒 言

余ハ本研究ノ第2乃至第6報ニ於テ、肺ニ於ケル結核ノ初感染及ビ之ニ次デ現ハル、肺門腺結核、肺ニ於ケル血行播種、肋膜炎等ニ就キテ述べ、次ニ所謂早期浸潤ニ就テ述ベタリ。以上ノ中初メノ4篇ハ何レモ結核感染後一定ノ法則ニ行ヒテ出現スルモノニシテ、其ノ「レ」立體寫眞像ニ於テモ大凡一定ノ規矩ニ從ヘル所見ヲ呈スル事上述セルガ如シ。又早期浸潤ニ於テモ其ノ像比較ノ簡單ニシテ立體寫眞像ニ於テモヨク其ノ形態ヲ明確ニ認ムル事ヲ得タリ。然ルニ病

變ガ慢性肺結核トシテ次第ニ廣汎ナル肺野ヲ占ムルニ從ヒ、其ノ像ハ多種多様ニ複雜性ヲ増シ、之ガ「レ」立體像ノ觀察モ次第ニ困難トナリ行キ、其ノ組織立ツタル解明モ容易ナラザルモノアリ。本篇ニ於テハ複雑極マリナキ慢性肺結核ノ「レ」立體像ヲ分析的ニ觀察シテ「レ」ニ依ル所謂生體解剖ノ意義ヲ明ラカニセン事ヲ期シタリ。素ヨリ完璧ヲ望ミ難キモ以テ大方諸賢ノ叱正ヲ乞ハムトス。

第2章 研 究 方 法

我大里内科入院及ビ外來患者中、慢性肺結核ニ該當スル者ニ第1報記載ノ方法ニ從ヒ立體寫眞撮影ヲ行ヒ、又之ト同時ニ出來得ル限リ普通寫眞撮影、並ニ臨床ノ諸検査ヲ施セリ。

後述セラレル臨床ノ諸検査成績ハ、立體寫眞撮影ノ1週間前後ニ於ケルモノニシテ、夫以上ノ期間ヲ距テタルモノハ未検査トシテ之ガ採用ヲ行ハザリキ。

赤血球沈降速度測定(赤沈反應ト略ス)ハ Westergren氏法ニ從ヒ、1時間値ヲ目標トナシ、「ピルケー氏皮膚反應ハ原液ニ於ケル發赤ヲ標準トス。

參考ニ供セル普通寫眞ハ焦點乾板距離 1.5米、輕吸氣停止ノ状態ニ於テ背腹矢狀方向ニ撮影セル者ニシテ、臨床ノ諸検査ト同様、立體撮影ノ前後1週間以内

ノモノヲ撰ビ、之ヨリ期間ノ相距タル者、及ビ立體、普通兩寫眞ノ硬度甚シク相異ナレル者ハ除外シ參考ニ供セザリキ。

又本文記載中用ヒラレタル統計ハ次ノ如キ方法ニ從ヘリ。

即、百分率誤差算出ニハ $Em\% = \sqrt{\frac{x(100-x)}{n}}$ ナル式ヲ用ヒ、茲ニ n ハ全數、 x ハ百分率ヲ意味ス。又二ツノ百分率ノ比較ニハ

$\frac{M_1\% \sim M_2\%}{\sqrt{(Em_1\%)^2 + (Em_2\%)^2}}$ ナル式ヲ用ヒ、此ノ商ガ3ヨリ大ナル場合ハ兩者ノ差ハ有意ト見做シ、3ヨリ小ナル場合ハ有意ナラズトセリ。

相關係數(γ)ノ算出ニハ、 $\gamma = \frac{\sum fd'xd'y - N\omega x\omega y}{\sqrt{1-\gamma^2} \sqrt{N\sigma x \sigma y}}$ ナル式ヲ用ヒ相關係數誤差ハ $\frac{\gamma}{\sqrt{N}}$ ナル式ヨリ算出セリ。

第3章 立體寫眞ヨリ觀タル陰影ノ種類ニ就テ

慢性肺結核ノR線像ハ極メテ複雑ナルモノ多ク、個々ノ陰影ヲ分析解釋スルニ當リ頗ル困難ヲ感ズル事多ク、陰影ノ種類ヲ或ルーツノ型ニ分類セントスルハ凡ソ至難ノ業ナレバ幾多先進諸家ニ依リテ各分類法ヲ試ミラレタルモ何レモ一長一短ニシテ、其ノ一ヲ以テハ滿ヲ期シ難キ状態ニアリ。立體寫眞觀察ニ依リテモ細目ニ互リテ分類ヲ行ヘバ其ノ際限非ザルモ、種々ナ病型多數ニ就キテ觀察セル結果、大凡ソ次ノ如キ種類ニ一括セラレ得ルモノト思惟セリ。

1. 無構造

陰影極メテ濃厚ニシテ立體的觀察ニ依リテモ、其ノ陰影ノ構成ヲ識別シ得ザルモノ。

2. 新鮮綿纖維狀陰影

之ハ新鮮ナル綿ヲ纖細、且均等的ニ、而モ薄キ層ニ裂キ擴ゲタル時ノ感ヲ示スモノニシテ陰影稀薄ニシテ其ノ境界朦朧トナリ、且均等性ニシテ一見無構造ノ如ク認メラル、モ入念ニ觀察スル時ハ、該陰影ハ微細ナル綿纖維ノ集合ヨリ成リ、亦之等纖維ノ間ニハ極メテ多數ノ結節様

物ノ附著ヲ認メ、之ガ相集リテーツノ陰影ヲ形成シタルモノ。

3. 新鮮綿狀陰影

之モ前者ト同様新鮮ナル綿纖維ノ集合ヨリ成立スルモ、前者ノ稀薄、薄層ニシテ中心部ニ至ル迄纖細ナル綿纖維ノ構造ヲ比較的著明ニ認メ得ルニ反シ、該陰影ニ於テハ、稍々濃厚ニシテ特ニ中心部多クハ強キ溷濁ヲ示シ、纖維ノ構造並ニ結節様物ヲ認メ難ク、其ノ周邊ニ至ルニ從ヒ漸次前者ノ性質ニ近ヅクモノ。

4. 小綿狀集合性陰影

之ハ前述新鮮綿狀陰影ノ小ナルモノガ不規則、且境界不鮮明ニ相集リテーツノ陰影ヲ形成スルモノニシテ、各々綿纖維ヲ以テ連結セラレ陰影全體ノ構造ハ濃淡ヲ示スモ以上新鮮ナル感アリ、恰モ新鮮ナル綿ヲ zerzupfen セル時ノ感ニ等シ。

5. 古綿狀陰影

之ハ上述セル新鮮ナル綿ノ場合ト趣ヲ異ニシ朦朧タル感ニ乏シク、結節様物ノ附著全く無キカ或ハ極メテ僅少ニシテ陰影ノ境界比較的明瞭且稍々粗雜ナル感ヲ與フルモノニシテ、以上ノ所見ヨリ少シク硬變ヲ思惟セシム。

6. 結節狀陰影

之ハ普通粟粒大乃至半米粒大ノ結節ノ集合ヨリ成ル陰影ニシテ、之等結節相互間ニハ新鮮綿狀系統ニ屬スル陰影ト異ナリ、纖細且新鮮ナル綿纖維ヲ認メズ。從ツテ結節ハ個々ニ認ム。

7. 硬化結節狀陰影並ニ線狀陰影

之ハ結節狀陰影ノ硬化性ニ認メラル、者、及ビ硬キ平滑ナル線狀陰影ノ集合ヨリ成レル陰影ヲ包含ス。

余ハ以上ノ如キ陰影分類ヲ以テ慢性肺結核ヲ觀察セントスルモ、詳細ナル記載ヲ行フニ先立チ、以上分類陰影ヲ普通寫眞所見ニ比較ヲ試ミン。

普通寫眞所見ニ依ル分類ハ病理解剖學ノ分類ニ基キ單ニ乾酪性、滲出性、増殖性、硬化性ニ區別セリ。

之等ノ比較ニハ餘リニ複雑ナル病變ヲ呈セル者ヲ避ケ1例ノミニ病變ヲ有シ、而モ一ノ種類ノ陰影ヲ有スル者ノミニ就キテ觀察ヲ行ハントス。以上ノ如キ變化ヲ示ス者ハ空洞性肺結核83例中25例、此ノ中普通寫眞ノ併用アル者15例、非空洞性肺結核69例中29例、其ノ中普通寫眞ノ併用アル者13例ニシテ合計28例ナリトス。

第 1 表

立體寫眞分類	普通寫眞分類		滲出性陰影		増陰 殖性影	硬陰 化性影	合 計
	乾陰 酪性影		大葉性	小葉性			
A. 1. 無 構 造	I 1	2					2
B.	2. 新鮮綿纖維狀陰影		I 1	2	3 3	I 1	23
	3. 新鮮綿狀陰影		2 5	7	I 1	2	
	4. 小綿狀集合性陰影		2	2	2	2	
C.	5. 古綿狀陰影				1	1	3
	6. 結節狀陰影				1	1	
D. 7. 硬化結節及ビ線狀陰影							
合 計	2		11	11	2	2	28

註 細字……非空洞性肺結核
 中字…… 空洞性肺結核
 太字……兩者合計數

第1表ノ如ク立體寫眞觀察分類ニ依ル陰影ヲ A, B, C, D ノ4種トスレバ, 非空洞性肺結核 13例ニ於テハ,

A = 乾酪性 1例(赤沈 60mm)
B = 滲出性 9例

赤沈
20mm 以下 2例
21-29mm 1例
30mm 以上 5例
不明 1例

ナル如ク13例中10例ニ以上ノ一致アルモ, 3例ニ相違アリ.

B... 増殖性 1例(赤沈 22mm)
B.....硬化性 1例(赤沈 60mm)
C.....硬化性 1例(赤沈 20mm)
空洞性肺結核15例ニ於テハ,
A = 乾酪性 1例(赤沈 80mm)

B = 滲出性 12例

赤沈
20mm 以下 3例
21-29mm 2例
30mm 以上 6例
不明 1例

C = 増強性 1例(赤沈 2mm)

ニシテ15例中14例ニ大體以上ノ一致アルモ, 他ノ1例ニ於テハ,

C.....滲出性(赤沈 19mm)ナリ.

以上ヨリ綜合觀察スルニ, 立體寫眞觀察分類ニ依ル A ハ普通平面寫眞ニ於ケル乾酪性ニ, B ハ滲出性, C ハ増殖性ニ大體一致ヲ見ルモノノ如ク, D ハ普通寫眞ニ其ノ該當スル症例ヲ缺ギタル爲比較不可能ナリシモ, 以下逐次ニ述ベラル、所見ニ明ラカナル如ク硬化性ニ該當スルモノト思惟セラル.

第4章 陰影ノ種類ヨリ觀タル慢性肺結核

慢性肺結核 152例ヲ病變ノ程度ニ依リ觀察スルニ, 1側ニ一種ノ病變アリテ他側ニ變化無キ者54例, 兩側ニ各々同性質ヲ示ス一種ノ陰影アル者19例, 左右各々相異ナレル性質ノ一種ノ陰影ヲ夫々有スル者52例, 何レカ1側ニ各種ノ陰影ヲ混在セシムル者27例ナリ.

之ヲ空洞性及ビ非空洞性ニ別チ觀察セル所ニ依レバ, 非空洞性肺結核ニ於テハ1側ニ一種ノ

陰影アル者多キモ, 空洞性肺結核ハ之ニ比シテ尠ナク, 反對ニ左右各々性質ヲ異ニスル一種ノ陰影存在スル者, 及ビ1側ニ各種ノ陰影ヲ混在セシムル者ニ於テハ空洞性ニ多數認ム. 即チ空洞性肺結核ニ於テハ非空洞性肺結核ニ比シ極メテ複雑ナル病變ヲ呈スル事ヲ明白ニ指示スルモノナリ. (第2表)

第 2 表

病 變 別	空 洞 ノ 有 無		合 計
	非 空 洞 性 肺 結 核	空 洞 性 肺 結 核	
一側ニ一種ノ陰影アリテ他側ニ變化無キモノ	29	25	54
兩側ニ同性質ノ一種ノ陰影存在スルモノ	10	9	19
左右各々相異ナレル性質ノ一種ノ陰影アルモノ	19	33	52
何レカ一側ニ各種ノ陰影混在セルモノ	11	16	27
合 計	69	83	152

1. 1側ニ一種ノ陰影アリ, 他側ニ變化無キ者(54例)

54例ニ就キテ見ルニ, 空洞性, 非空洞性共ニ新鮮綿纖維狀及ビ新鮮綿狀陰影ヲ以テ其ノ大半

ヲ占ム、更ニ第3表ニ依リ觀察ヲ深ムルニ無構造ノ者空洞性ニ多ク、反之古綿狀陰影、結節狀陰影、硬化性結節及ビ線狀陰影等ニ於テハ、幾

分非空洞性肺結核ニ多數ナルガ如ク認め得。(第3表)

第 3 表

陰影ノ種類		空洞ノ有無		非空洞性肺結核			空洞性肺結核			合計
		左	右	左	右	計	左	右	計	
無	構造	0	1	1	1	2	3	4		
新鮮	綿纖維狀陰影	2	8	10	0	7	7	17		
新鮮	綿狀陰影	6	0	6	2	6	8	14		
小綿	狀集合性陰影	0	4	4	2	1	3	7		
古	綿狀陰影	2	0	2	0	1	1	3		
結節	狀陰影	2	1	3	2	0	2	5		
硬化	結節狀並ニ線狀陰影	1	2	3	1	0	1	4		
合計		13	16	29	8	17	25	54		

2. 兩側ニ同性質ノ一種ノ陰影ヲ有スル者 (19例)

之等症例19例ニ於テハ、1側一種ノ場合ト異ナリ小綿狀集合性陰影ノ増加アリ、空洞性、非空洞性間ニ於テハ症例尠ナキ爲著明ナル差ヲ認め得ズ。詳細ハ第4表ニ示ス。

第 4 表

陰影ノ種類		空洞ノ有無		合計
		非空洞性肺結核	空洞性肺結核	
無	構造	0	0	0
新鮮	綿纖維狀陰影	3	3	6
新鮮	綿狀陰影	2	0	2
小綿	狀集合性陰影	3	4	7
古	綿狀陰影	1	1	2
結節	狀陰影	1	1	2
硬化	結節狀並ニ線狀陰影	0	0	0
合計		10	9	19

3. 左右各々性質ノ相異ナレル一種ノ陰影アル者 (52例)

便宜上左右陰影ノ配合ヲ示セバ第5表a, bノ如ク非空洞性肺結核ニ於テハ新鮮綿纖維狀陰影ト新鮮綿狀陰影ノ配合最モ多ク、空洞性ニ於テハ新鮮綿纖維狀陰影、小綿狀集合性陰影トノ配合多數認め (第5表a), 兩者合計52例ニ於テハ

(新鮮綿纖維狀陰影+新鮮綿狀陰影) → (新鮮綿狀陰影+小綿狀集合性陰影) → (新鮮綿纖維狀陰影+小綿狀集合性陰影)ノ順序ニシテ而モ之等ハ大凡ソ半數近クヲ占メ、又右側ニ於ケル新鮮綿纖維狀陰影ハ左側ト多數例ニ配合シ、左側ニ於ケル小綿狀集合性陰影ハ右側ノ陰影ト多數ノ組合セヲ作ル。新鮮綿狀陰影ハ左右共可成多數ニ於テ他側ノ陰影ト配合セラル、事多シ。

第 5 表 (b)

慢性肺結核 (52例)									
		1	2	3	4	5	6	7	計
右	1		1		1				2
	2			3	1	2	2		8
	3		9	2	1			2	14
	4	2	5	6		2	1		16
	5		1	1	2		1	2	7
	6			2					2
	7			1		1		1	3
	計	2	16	15	5	5	4	5	52

4. 左右何レカ1側ニ各種類ノ陰影混在スル者 (27例)

右側ニ複雑ナル者多キヲ認めタリ。

第 5 表 (a)

非空洞性肺結核(19例)									空洞性肺結核(33例)										
右		1	2	3	4	5	6	7	計	右		1	2	3	4	5	6	7	計
左										左									
1										1		1		1					2
2				1	1	1			3	2			3		1	1			5
3		5						1	6	3		4	2	1			1		8
4	1		3						4	4	1	5	3		2	1			12
5				1				2	3	5		1	1	1		1			4
6			2						2	6									0
7								1	1	7			1		1				2
計	1	5	5	2	1	1	4	4	19	計	1	11	10	3	4	3	1		33

註：表 a, b, 二於ケル上横欄及ビ左縦欄ノ數字ハ下記ノ陰影ヲ意味ス。

- 1. 無構造
- 2. 新鮮綿織維狀陰影
- 3. 新鮮綿狀陰影
- 4. 小綿狀集合性陰影
- 5. 古綿狀陰影
- 6. 結節狀陰影
- 7. 硬化結節及ビ線狀陰影

第 5 章 立體寫眞ヨリ觀タル陰影ノ檢計

第 1 節 各種陰影ノ位置ノ關係ニ就テ

前述セル立體寫眞學ノ分類ニ依ル陰影種類ノ肺野ニ於ケル關係ヲ見ルニ第 6 表ノ如ク、肺野ヲ肺尖部、上肺野、中肺野、下肺野ニ分チ、兩側ニ同性質ノ一種ノ陰影ノ認メ得ル者、及ビ廣範ナル變化ヲ呈スル症例ヲ除外シテ陰影個々ヲ單位トシ 131 個ニ就キテ觀察スルニ、無構造

ニ於テハ肺尖部大多數ヲ占メ、新鮮綿織維狀陰影ハ上肺野ニ斷然多數ヲ認メ、新鮮綿狀陰影モ上肺野ニ多數存在ハスルモ、他ノ肺野ニモ亦相當散在スルヲ示シ、小綿狀集合性陰影ニ於テハ他ノ肺野ヨリ僅カニ上肺野ニ多數ヲ占ム。其他ノ陰影ニ於テハ全テ上肺野ニ極メテ多シ。(第 6 表)

第 6 表

陰影	肺野		肺尖部			上肺野			中肺野			下肺野			合計
	左右		左	右	計	左	右	計	左	右	計	左	右	計	
	左	右													
無構造	1	5	6	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8
新鮮綿織維狀陰影	0	2	2	3	11	14	2	4	6	0	2	2	2	2	24
新鮮綿狀陰影	3	6	9	10	10	20	5	8	13	3	8	11	11	53	
小綿狀集合性陰影	1	1	2	4	2	6	1	3	4	0	2	2	2	14	
古綿狀陰影	1	1	2	5	6	11	3	0	3	0	0	0	0	16	
結節狀陰影	0	0	0	2	2	4	1	0	1	2	0	2	2	7	
硬化結節狀並ニ線狀陰影	0	2	2	3	3	6	1	0	1	0	0	0	0	9	
合計	6	17	23 (17.5%± 3.32%)	27	36	63 (48.0%± 4.36%)	13	15	28 (21.3%± 3.85%)	5	12	17 (12.9%± 2.93%)		131 (100%)	

第 2 節 陰影ト肺門部トノ關係

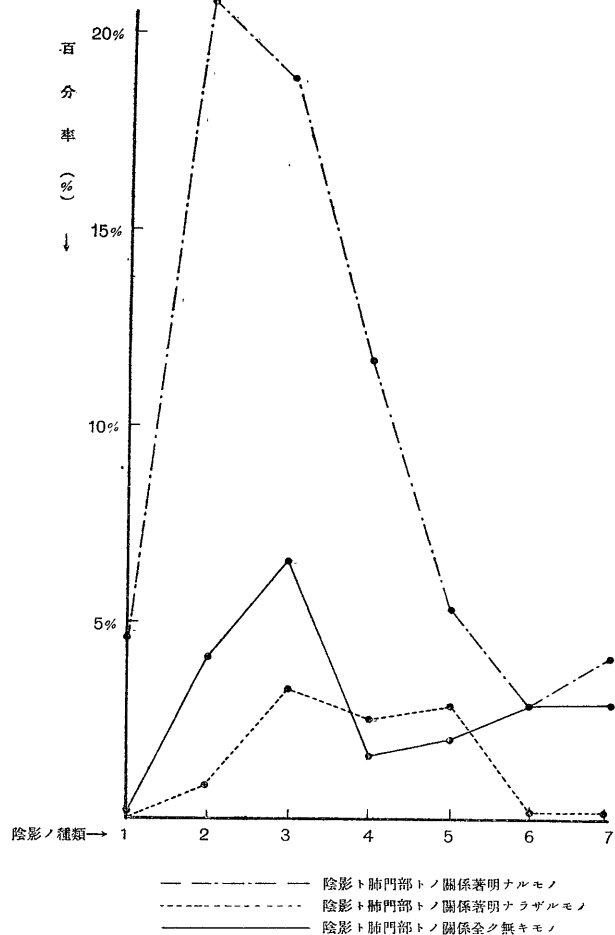
第 1 項 陰影種類ト肺門部ト

ノ關係ニ就テ

兩側ニ同性質ノ陰影存在スル場合ヲ除キテ各陰影ヲ單位トシ 239 個ニ就キ之等各種陰影ト肺門部トノ關係ヲ觀察スルニ第 7 表(a)ニ示セル

第 7 表 (b)

ガ如ク、肺門部トノ關係著明ナル者164例(68.6%±3.01%)、關係著明ナラザル者25例(10.4%±1.97%)、關係全ク無キ者50例(20.9%±2.62%)ニシテ肺門部トノ關係ヲ有スル者多數ナルモ、特ニ新鮮綿纖維狀陰影、新鮮綿狀陰影及ビ小綿狀集合性陰影ニ於テハ關係全ク無キ場合ニ比シテ著明ナル懸隔アリ、又比較的良質ト見做サル、古綿狀陰影、結節狀陰影、硬化結節狀及ビ線狀陰影ニ於テハ極メテ低率ヲ示シ、換言スレバ、陰影ト肺門部トノ關係著明ナルモノニ於テハ新鮮ナリト想像セラル、陰影ト、比較的陳舊ト推察セラル、陰影ノ間ニハ、大ナル比率ノ差ヲ以テ前者ニ多數ヲ認メ、關係全ク無キ場合ニ於ケル兩者ノ差ハ極メテ僅少ニシテ關係著明ナル場合ト甚シク趣ヲ異ニシ、之ヨリ新鮮綿狀系統ニ屬スル陰影ハ肺門部トノ關係濃厚ナルヲ認メタリ。(第7表a, b)



第 7 表 (a)

陰影ノ種類	空洞ノ有無 陰影ト肺門部トノ關係			非空洞性肺結核			空洞性肺結核			慢性肺結核			
	(+)	(±)	(-)	(+)	(±)	(-)	(+)	(±)	(-)	(+)	(±)	(-)	合計
1 無構造	4	0	1	7	0	0	11 (4.6%)	0	1 (-)	12 (5.0%)			
2 新鮮綿纖維狀陰影	13	1	7	37	1	3	50 (20.9%±2.62%)	2 (0.8%)	10 (4.1%)	62 (25.9%)			
3 新鮮綿狀陰影	15	0	10	30	8	6	45 (18.8%±2.51%)	8 (3.3%)	16 (6.6%)	69 (28.8%)			
4 小綿狀集合性陰影	9	4	2	19	2	2	28 (11.7%±2.07%)	6 (2.5%)	4 (1.6%)	38 (15.8%)			
5 古綿狀陰影	5	5	4	8	2	1	13 (5.4%)	7 (2.9%)	5 (2.0%)	25 (10.4%)			
6 結節狀陰影	3	1	2	4	0	5	7 (2.9%)	1 (-)	7 (2.9%)	15 (6.2%)			
7 硬化結節狀並ニ線狀陰影	4	1	7	6	0	0	10 (4.1%)	1 (-)	7 (2.9%)	18 (7.5%)			
合計	53	12	33	111	13	17	164 (68.6%±3.01%)	25 (10.4%±1.97%)	50 (20.9%±2.62%)	329 (100%)			

第2項 空洞の有無ヨリ觀タル

陰影ト肺門部トノ關係

239例中，肺門部トノ關係著明ナル者164例＝於テハ空洞性肺結核＝屬スル者111例 (67.68% ± 3.651%)，非空洞性肺結核＝屬スル者53例 (32.31% ± 3.651%) ニシテ空洞性＝約2倍ノ關係率アリ。而シテ此ノ兩者ノ百分率間＝ハ統計誤差ヲ超越セル有意ノ差(6.85)ヲ認ム。

肺門部トノ關係著明ナラザル者25例＝アリテハ空洞性13例(52%)，非空洞性12例(48%)ニシテ多少空洞性＝其ノ率高キモ兩者ノ差ハ前者程

著シカラズ。

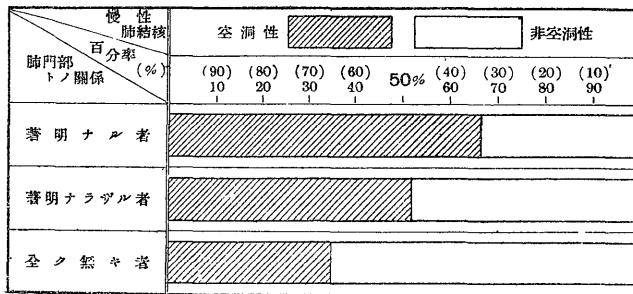
肺門部トノ關係全ク無キ50例＝於テハ，空洞性17例(34%)，非空洞性33例(66%)ニシテ非空洞性＝斷然多數ヲ認メ，肺門部トノ關係著明ナル場合ト全ク逆現象ヲ呈ス。

以上ヨリ考察スル＝空洞性肺結核＝於テハ，肺門部トノ關係著明ナル陰影多ク，非空洞性肺結核＝於テハ，肺門部トノ關係全ク無キ陰影多數ナルヲ認メ得可ク(第8表a)，以上述ベタル所ヲ圖示シタル第8表(b)ヲ觀察スレバ，上述ノ關係一目ニシテ歴然タル可シ。

第 8 表 (a)

肺門部トノ關係	全數	空洞性肺結核	非空洞性肺結核	$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{(Em_1)^2 + (Em_2)^2}}$
著明ナルモノ(+)	164	111 ($M_1 \pm Em_1 = 67.68\% \pm 3.651\%$)	53 ($M_2 \pm Em_2 = 32.31\% \pm 3.651\%$)	6.85
著明ナラザルモノ(±)	25	13 (52%)	12 (48%)	
全ク無キモノ(-)	50	17 (34%)	33 (66%)	
合 計	239	141 ($M_1 \pm Em_1 = 58.99\% \pm 3.181\%$)	98 ($M_2 \pm Em_2 = 41.00\% \pm 3.181\%$)	

第 8 表 (b)



更ニ進ミテ第9表ヲ觀察スル＝空洞性肺結核＝屬スル陰影141例中，肺門部トノ關係著明ナル者111例(78.72% ± 3.346%)，肺門部トノ關係全ク無キ者17例(12.06% ± 2.732%)ニシテ兩者ノ百分率ヲ比較スルニ，

$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{(Em_1)^2 + (Em_2)^2}} = 15.48$ ニシテ兩者間＝ハ統計誤差ヲ超越セル極メテ著明ナル有意ノ差ヲ

以テ關係著明ナル者多數ヲ認ム。

次ニ非空洞性肺結核＝於ケル陰影98例＝就キテ見レバ，肺門部トノ關係著明ナル者53例(54.08% ± 5.0338%)，肺門部トノ關係全ク無キ者33例(33.67% ± 4.773%)ニシテ非空洞性＝於テモ，關係著明ナル者ハ，關係全ク無キ者＝比シ少シク多數ハ認メラルレ共，此ノ兩者間ノ百分率ヲ

比較スルニ、

$\frac{M_1 \sim M_2}{\sqrt{(Em_1)^2 + (Em_2)^2}} = 2.94 \approx 3$ ナル値ニテ、空洞性肺結核ノ場合ト異ナリ、辛ジテ有意ノ差ト認めラル、程度ニシテ、其ノ境界ニアリ。

尙又、第 9 表ニ示セル百分率並ニ百分率誤差ヲ此ノ場合便宜上、空洞性ヲ M_1^1 , Em_1^1 , 非空洞性ニ於ケル夫等ヲ M_2^1 , Em_2^1 ヲ以テ代表セシメ、兩肺結核病型間ニ於ケル頻度ノ差ヲ求ムレバ、肺門部トノ關係著明ナル者ニ於テハ、

$\frac{M_1^1 \sim M_2^1}{\sqrt{(Em_1^1)^2 + (Em_2^1)^2}} = 4.076 > 3$ ナル値ヲ以テ有意ノ差ヲ認め、

關係著明ナラザル者ニアリテハ、

$\frac{M_2^1 \sim M_1^1}{\sqrt{(Em_1^1)^2 + (Em_2^1)^2}} = 0.75 < 3$ ニシテ有意ノ差ヲ認めル能ハズ。

關係全ク無キ者ニ於テハ、

$\frac{M_2^1 \sim M_1^1}{\sqrt{(Em_1^1)^2 + (Em_2^1)^2}} = 3.931 > 3$ ナル結果ヲ以テ有意ノ差ヲ證明セリ。

以上ヨリ考察判斷スルニ空洞性肺結核ニ於テハ非空洞性肺結核ニ比シ、肺門部トノ關係著明ナル陰影極メテ多數ナルヲ認め、而シテ上述各數字の關係ハ統計學的ニ明白ニ實證シ得ルモノナリ。

第 9 表

陰影ト肺門部關係トノ 空洞ノ有無		著明ナルモノ	著明ナラザルモノ	全クナキモノ	$\frac{M_1 \sim M_2}{\sqrt{(Em_1)^2 + (Em_2)^2}}$
空洞性肺結核	141	111	13	17	15.48 > 3
		$M_1 \pm Em_1 = 78.72\% \pm 3.346\%$	9.22% ± 3.436%	$M_2 \pm Em_2 = 12.06\% \pm 2.732\%$	
非空洞性肺結核	98	53	12	33	2.94 ≈ 3
		$M_1 \pm Em_1 = 54.08\% \pm 5.0338\%$	12.24% ± 3.211%	$M_2 \pm Em_2 = 33.67\% \pm 4.773\%$	
$\frac{M_1^1 \sim M_2^1}{\sqrt{(Em_1^1)^2 + (Em_2^1)^2}}$		4.076 > 3	0.75 > 3	3.931 > 3	

第 3 項 陰影ト肺門部トノ關係ニ於ケル左右觀

肺門部トノ關係判明セル陰影 239 例中、左側 109 例、右側 130 例ナリ。

左右合計ニ於テ肺門部トノ關係著明ナル者ハ 164 例 (68.6% ± 3.01%)、關係全ク無キ者 50 例 (20.9% ± 2.62%)、著明ナラザル者 25 例 (10.4% ± 1.97%) ニシテ、之ヲ左右別ニ見ル時ハ左側ニ於テハ肺門部トノ關係著明ナル者 76 例 (69.7% ± 4.40%)、關係全ク無キ者 22 例 (20.1% ± 3.84%)、關係著明ナラザル者 11 例 (10.0% ± 2.88%) ナリ。

右側 130 例ニ於テハ關係著明ナル者 88 例 (67.6% ± 4.10%)、關係全ク無キ者 28 例 (21.5% ± 3.60%)、著明ナラザル者 14 例 (10.7% ± 2.71%) ニシテ左右ニ於ケル之等ノ關係ハ略々同率程度ヲ示シ、大差無キモノノ如ク推察サル。(第 10 表)

第 10 表

左右	全數	肺門部トノ關係著明ナルモノ	肺門部トノ關係著明ナラザルモノ	肺門部トノ關係全ク無キモノ
左側	109	76 (69.7% ± 4.40%)	11 (10.0% ± 2.88%)	22 (20.1% ± 3.84%)
		88 (67.6% ± 4.10%)	14 (10.7% ± 2.71%)	28 (21.5% ± 3.60%)
右側	130	164 (68.6% ± 3.01%)	25 (10.4% ± 1.97%)	50 (20.9% ± 2.62%)
		88 (67.6% ± 4.10%)	14 (10.7% ± 2.71%)	28 (21.5% ± 3.60%)
合計	239	164 (68.6% ± 3.01%)	25 (10.4% ± 1.97%)	50 (20.9% ± 2.62%)

第 3 節 陰影ト赤沈反應トノ關係

赤沈反應 1 時間値 mm ヲ以テ表シ、便宜上 10mm 區分ト爲シ、前記立體寫眞學の分類ニ依ル陰影トノ關係ヲ觀察セントス。

症例ハ陰影ノ單一ナル者、及ビ 2 種以上ノ陰影混在セル者ニ大別シ、之等各々ニ於テ空洞性、非空洞性ニ分チ觀察ヲ施サントス。

**第1項 陰影單一ナル肺結核
症例 = 就テ**

肺野 = 單一ノ陰影ヲ有スル者ハ非空洞性39名, 空洞性34名ニシテ, 之等ノ中赤沈反應ヲ施行セザル者ハ兩者各々4名アリ。

第11表 (a) ハ非空洞性肺結核患者35名ニ就キ立體寫眞學的陰影ヲ良性ト推察セラル、モノヨリ上ヨリ序列シ縦軸ニ取り、赤沈値ヲ10mm, 區分ト爲シテ左側ヨリ横軸ニ取りテ作製セル者、第11表 (b) ハ同様、空洞性肺結核患者30名ニ就キ、第11表 (c) ハ兩者合計65名ニ於ケル觀察ナリトス。

非空洞性肺結核ニ於テハ上方ニ位スル良性ト

思惟セラル、陰影ニアリテハ赤沈値ノ促進比較の輕度ニシテ、小綿狀集合性陰影、新鮮綿狀陰影、新鮮綿纖維狀陰影。無構造等ニ於テハ高度促進ノ者多數ヲ認ム。(第11表(a))

空洞性肺結核及ビ空洞性、非空洞性合計ニ於テハ、陰影ト赤沈反應トノ關係極メテ不規則ニシテ、尙之等各々ニ就キ表示ノ配列ニ於ケル相關ヲ觀察スルニ、非空洞性(第11表 a) $\gamma \pm mr = +0.171 \pm 0.1642$, 空洞性(第11表 b) $\gamma \pm mr = +0.093 \pm 0.1810$, 合計(第11表 c) $\gamma \pm mr = +0.149 \pm 0.1213$ ナル結果ニシテ何レモ相關々係ハ成立セズ、蓋シ之等分類細別セル陰影間ニモ移行型アル爲ト推察サル。

第 1 1 表 (a)

陰影種類	赤沈反應							合計
	←10 mm	11-20 mm	21-30 mm	31-40 mm	41-50 mm	51-60 mm	61→ mm	
硬化結節狀及ビ線狀陰影		2			1			3
結節狀陰影			1	1	1			3
古綿狀陰影		2						2
小綿狀集合性陰影	2					2	2	6
新鮮綿狀陰影			1	2	2		3	8
新鮮綿纖維狀陰影		1	4	2	3	2		12
無構造						1		1
合計	2	5	6	5	7	5	5	35

$\gamma \pm m\gamma = +0.171 \pm 0.1642$

第 1 1 表 (b)

陰影種類	赤沈反應							合計
	←10 mm	11-20 mm	21-30 mm	31-40 mm	41-50 mm	51-60 mm	61→ mm	
硬化結節及ビ線狀陰影	1						2	1
結節狀陰影							2	2
古綿狀陰影	1		1					2
小綿狀集合性陰影		2	1		1		2	6
新鮮綿狀陰影	2	1	2			2	2	9
新鮮綿纖維狀陰影	1	1	1		3		2	8
無構造		1					1	2
合計	5	5	5		4	2	9	30

$\gamma \pm m\gamma = +0.093 \pm 0.1810$

第 1 1 表 (c)

赤沈反應 陰影種類	赤沈反應							合計
	←10 mm	11-20 mm	21-30 mm	31-40 mm	41-50 mm	51-60 mm	61→ mm	
硬化結節狀及び線狀陰影	1	2			1			4
結節狀陰影			1	1	1		2	5
古綿狀陰影	1	2	1					4
小綿狀集合性陰影	2	2	1		1	2	4	12
新鮮綿狀陰影	2	1	3	2	2	2	5	17
新鮮綿纖維狀陰影	1	2	5	2	6	2	2	20
無構造		1				1	1	3
合計	7	10	11	5	11	7	14	65

$\gamma \pm m\gamma = +0.149 \pm 0.1213$

第2項 異種陰影混在セル肺

結核症例ニ就テ

2種以上ノ性質ヲ異ニスル陰影ノ混在セル者ハ非空洞性30名、空洞性49名ニシテ、之等ノ中赤沈反應ヲ施行セザル例ハ空洞性ニ9名アリ。

之等症例ハ種々ナル陰影ヲ混在セシムルヲ以テ陰影ヲ細別スルニ於テハ誠ニ複雑極マリ無ク、其ノ成績亦支離滅裂ニ陥リ反ツテ無意味ナレバ、第1表ニ示セルガ如ク、

A 無構造

B { 新鮮綿纖維狀陰影
新鮮綿狀陰影
小綿狀集合性陰影

C { 古綿狀陰影
結節狀陰影

D 硬化結節及び線狀陰影

ト大別シ縦軸ニ上方ヨリ D, C, B, A ノ順序

ニ、即チ良性ト推察セラル、モノヨリ序列シ、赤沈値ヲ10mm、區分ト爲シテ左方ヨリ右方ニ横軸ト爲ス時ハ、非空洞性30例ニ於ケル第12表(a)、空洞性40例ノ第12表(b)、兩者合計70例ニ於ケル第12表(c)ヲ得ラル可シ。

之ニ依レバ第12表(a)、即チ非空洞性ニ於テハ、赤沈値促進程度ト陰影不良化トノ間ニハ、 $\gamma \pm m\gamma = +0.455 \pm 0.1447$ ナル有意ト認メ得ル正ノ相關ノ存在アリ。空洞、非空洞性合計ヲ示ス第12表(c)ニ於テモ、

$\gamma \pm m\gamma = +0.517 \pm 0.0875$ ナル有意ト斷ジ得ル中等度ノ正ノ相關證明セラレ、空洞性(第12表(b))ニアリテハ、

$\gamma \pm m\gamma = +0.263 \pm 0.1472$ ニシテ、 $\gamma < 3m\gamma$ ナレバ有意トハ認メ難キモ正ノ相關ノ存在ヲ認メ得。

第 1 2 表 (a)

赤沈反應 陰影種類	赤沈反應							合計
	←10 mm	11-20 mm	21-30 mm	31-40 mm	41-50 mm	51-60 mm	61→ mm	
C + D	2	2				1		5
B + D				1	1		2	2
B + C		1	1	1		1	2	6
B		1	2	1	1	7	3	14
A + B								3
合計	2	4	3	3	2	9	7	30

$\gamma \pm m\gamma = +0.455 \pm 0.1447$

第 1 2 表 (b)

陰影種類 \ 赤沈反應	赤沈反應							合計
	←10 mm	11-20 mm	21-30 mm	31-40 mm	41-50 mm	51-60 mm	61→ mm	
C + D	1							1
C				1				1
B + D		1				1		2
B + C		1	1	4		3	2	11
B		1	4	3	1	3	10	22
A + D						1		1
A + B					1		1	2
合 計	1	3	5	8	2	8	13	40

$$\gamma \pm m\gamma = +0.263 \pm 0.1472$$

第 1 2 表 (c)

陰影種類 \ 赤沈反應	赤沈反應							合計
	←10 mm	11-20 mm	21-30 mm	31-40 mm	41-50 mm	51-60 mm	61→ mm	
C + D	3	2				1		6
C				1				1
B + D		1		1	1	1		4
B + C		2	2	5		4	4	17
B		2	6	7	2	10	12	36
A + D						1		1
A + B					1		4	5
合 計	3	7	8	11	4	17	20	70

$$\gamma \pm m\gamma = +0.517 \pm 0.0875$$

以上ノ成績ヨリ考察スルニ、空洞性肺結核ニ於テノミ有意ノ相關ヲ證明セザル理由ハ、空洞性ニ於ケル赤沈値ハ、其ノ病型ノ複雑ナル爲、往々ニシテ一致ヲ缺グ事アルハ臨床上ニ經驗スル所、サレバ非空洞性ニ認メラル、ガ如キ確實ナル相關存セザルモノナル可ク、要之、以上立體寫眞學ノ分類ニ基ク陰影ハ大體 D、→C、→B、→A ノ順序ニ良性→悪性ニ移動スルモノナル事ヲ推察シテ可ナリト信ズ。

第 4 節 陰影種類ト體溫トノ關係

空洞性肺結核83例中、體溫ヲ測定セザル者15例アリ、測定ヲ行ヘル68例ニ於テハ發熱アル者36例(52.94%)、全ク平熱状態ヲ示セル者32例

(47.05%)ニシテ、非空洞性肺結核ニ於テハ69例中、體溫ノ測定ヲ行ハザル者8例ニシテ、測定セル61例ニアリテハ、發熱ヲ認ムル者22例(36.06%)、全ク平熱状態ヲ示ス者39例(63.93%)ニシテ、空洞性ニ於テハ發熱アル者少シク多數ナルニ、非空洞性ニアリテハ、平熱状態ヲ示セル者多數ヲ認メタリ。(第13表 a)

次ニ發熱ヲ認メタル58例ニ於ケル陰影ノ種類ヲ見ルニ前述ノ如ク A、B、C、Dニ大別スレバ、 $B > A = A + B$ 、 $> B + C$ 、 $> C$ 、 $> A + D$ 、 $= C + D$ ニシテ Bヲ以テ大部分ヲ占メタリ。即チ新鮮綿纖維狀陰影、新鮮綿狀陰影及ビ小綿狀集合性陰影ニ相當スルナリ。(第13表 b)

第 1 3 表 (a)

空 洞 ノ有無	體 溫			體 溫 ヲ測 定 セザル者	合 計
	體 溫 ヲ測 定 セ ル 者				
	例 數	發 熱 アル者	發 熱 ナキ者		
空 洞 性 肺 結 核	68 (100%)	36 (52.94%)	32 (47.05%)	15	83
非 空 洞 性 肺 結 核	61 (100%)	22 (36.06%)	39 (63.93%)	8	69
合 計	129 (100%)	58 (44.96%)	71 (55.03%)	23	152

第 1 3 表 (b)

陰影種類	空 洞 性 肺 結 核	非 空 洞 性 肺 結 核	合 計
A	3	1	4
B	27	16	43
C	2	0	2
A + B	2	2	4
A + D	1	0	1
B + C	1	2	3
C + D	0	1	1
合 計	36	22	58

第 5 節 陰影種類ト喀痰中結核菌トノ關係

慢性肺結核 152 例中、喀痰中結核菌ヲ検査セル者 129 例ニシテ空洞性肺結核 69 例ニ於テハ結核菌陽性ナル者 51 例 (73.91%)、陰性 18 例 (26.08%)、非空洞性 60 例ニ於テハ結核菌陽性 24 例 (40.00%)、陰性 36 例 (60.00%)ニシテ兩者合計ニテハ 129 例中陽性 75 例 (58.13%)、陰性 54 例 (41.86%)ニ當ル。(第 14 表 a)

第 1 4 表 (a)

空 洞 ノ有無	喀 痰 中 結 核 菌 檢 査			未 檢 査	合 計
	檢 査 セ ル モ ノ				
	例 數	結 核 菌 ヲ證 明 スルモノ	結 核 菌 ヲ證 明 セザルモノ		
空 洞 性 肺 結 核	69 (100%)	51 (73.91%)	18 (26.08%)	14	83
非 空 洞 性 肺 結 核	60 (100%)	24 (40.00%)	36 (60.00%)	9	69
合 計	129 (100%)	75 (58.13%)	54 (41.86%)	23	152

次ニ喀痰中結核菌ヲ證明セル 75 例ニ於ケル陰影別ヲ見ルニ第 14 表 (b) ノ如ク、

$B > B + C$, $A > C = A + B$, $A + D = B + D = C + D$ ニシテ B = 最モ多數ニ認メタリ。

第 1 4 表 (b)

陰影種類	空 洞 性 肺 結 核	非 空 洞 性 肺 結 核	合 計
A	3	1	4
B	37	16	53
C	3	0	3
A + B	1	2	3
A + D	1	0	1
B + C	6	3	9
B + D	0	1	1
C + D	0	1	1
合 計	51	24	75

第 6 章 慢性肺結核ニ於ケル空洞ニ就テ

第 1 節 空洞周圍ニ於ケル陰影ニ就テ

117 例ノ空洞周圍ノ變化ニ就キテ、立體寫眞觀察ニ依ル陰影ヲ分類セルニ第15表ノ如ク、新鮮綿狀陰影52例 (44.44%±4.593%)、新鮮綿纖維狀陰影34例 (29.05%±4.196%)、小綿狀集合性陰影10例 (8.54%)、無構造及ビ古綿狀陰影各々8例 (6.83%)、結節狀陰影5例 (4.27%)ニシテ硬化結節及ビ線狀陰影ヲ缺グ。

以上成績ニ明ラカナル如ク、空洞周圍ノ變化

ヲ示ス陰影ハ新鮮綿狀系統ニ屬スル陰影ヲ以テ其ノ大部分ト爲シ、其中、新鮮綿狀陰影最モ多數ニシテ全體ノ 44.44% (±4.593%) ヲ占メタリ。(第15表)

第 2 節 空洞ノ位置ニ就テ

本稿ニ於テハ主トシテ空洞ノ肺層位ニ於ケル位置觀察ヲ施サントス。空洞個々ヲ單位トシ、之等各々ノ肺層ニ於ケル位置ヲ立體的ニ觀察スルニ117 例中、肺層位ノ判明確實ナラザル者20 例アリ(左側42例中12例、右側75例中8例)、97 例ニ就キテ觀察セル所ハ第16表ノ如ク、中央肺層ニ於ケル前額位平面ヨリ前胸壁ノ方ニ偏シ存在セル者26例 (26.8%±4.49%)、背側ノ方ニ存在スル者71例 (73.1%±4.49%)ニシテ背側ニ存在スル者極メテ多數ナルヲ認ム。

空洞ノ存在位置ト肺野トノ關係ハ上肺野97例中48例 (49.4%)、中肺野25例 (25.7%)ニシテ之等ニ肺野ヲ以テ大部分ト爲シ、肺層位ニ於ケル肺野トノ關係ハ、何レノ肺野ニ於テモ後層ニ存在スル者多數ヲ認メタリ。(第16表 a, b)

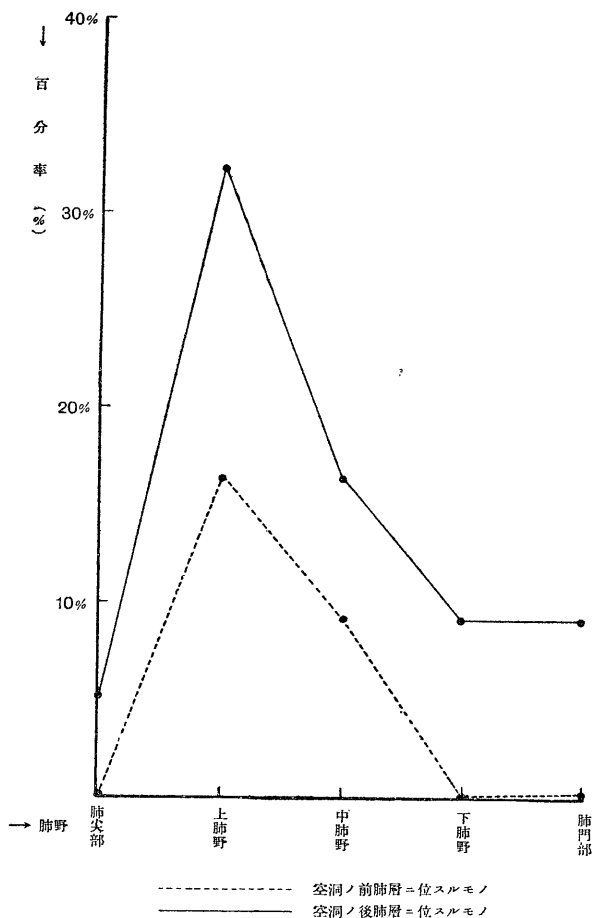
第 1 5 表

陰影ノ種類	空洞數	百分率(%)
無構造	8	6.83
新鮮綿纖維狀陰影	34	29.05±4.196
新鮮綿狀陰影	52	44.44±4.593
小綿狀集合性陰影	10	8.54
古綿狀陰影	8	6.83
結節狀陰影	5	4.27
硬化結節及ビ線狀陰影	0	()
合計	117	100.(%)

第 1 6 表 (a)

左右別 肺層位	左側			右側			左右合計		
	前	後	計	前	後	計	前	後	計
肺尖部	0	3	3	0	2	2	0	5 (5.1%)	5 (5.1%)
上肺野	4	10	14	12	22	34	16 (16.4%)	32 (32.9%)	48 (49.4%)
中肺野	3	7	10	6	9	15	9 (9.2%)	16 (16.4%)	25 (25.7%)
下肺野	0	0	0	0	9	9	0	9 (9.2%)	9 (9.2%)
肺門部	0	3	3	1	6	7	1 ()	9 (9.2%)	10 (10.3%)
合計	7	23	30	19	48	67	26 (26.8%± 4.49%)	71 (73.1%± 4.49%)	97 (100%)

第 1 6 表 (b)



第3節 空洞ト肺門部

トノ關係

空洞 117 例中, 肺門部トノ關係ノ判斷確實ナラザル者 15 例アリ. 確實ニ兩者ノ關係ヲ識別シ得タル 102 例ニ就キテ觀察スレバ, 空洞ト肺門部トハ著明ナル關係ヲ有スル者 62 例 (60.7%), 全ク兩者ノ關係無キ者 25 例 (24.5%), 關係著明ナラザル者 15 例 (14.7%) ニシテ半數以上ニ於テ肺門部トノ關係著明ナルヲ認ム. (第17表)

第 1 7 表

肺野	左右ノ別						左右合計			計
	左側			右側			(+)	(±)	(-)	
空洞ト肺門部トノ關係	(+)	(±)	(-)	(+)	(±)	(-)	(+)	(±)	(-)	
肺尖部	3	0	1	2	1	0	5	1	1	7 (6.8%)
上肺野	10	2	3	10	8	15	20	10	18	48 (47.0%)
中肺野	6	0	2	11	3	4	17	3	6	26 (25.4%)
下肺野	0	0	0	8	1	0	8	1	0	9 (8.8%)
肺門部	4	0	0	8	0	0	12	0	0	12 (11.7%)
合計	23	2	6	39	13	19	62 (60.7%)	15 (14.7%)	25 (24.5%)	102 (100%)

次=空洞=就キテ肺層=於ケル位置ト肺門部トノ關係ヲ觀察スルニ、肺門部トノ關係並ニ肺層位置ヲ判斷シ得タル者ハ93例アリ。之等=就キテ見レバ肺門部トノ關係著明ナル者57例中、前層位10例、後層位47例、肺門部トノ關係著明ナラザル13例=アリテハ前層位5例、後層位8例、全ク關係ヲ認メザル23例=於テハ前層位8例、後層位15例=シテ、以上ヨリ考察スルニ後肺層=存在スル者ハ肺門部トノ關係極メテ著明ナル如ク推察セラル。(第18表)

第 1 8 表

肺門部トノ關係	全數	前肺層	後肺層
著明ナルモノ(+)	57	10	47
著明ナラザルモノ(±)	13	5	8
全クナキモノ(-)	23	8	15
合計	93	23	70

最後=空洞ノ肺層位、肺野及ビ肺門部トノ關

係ヲ綜合的ニ觀察スルニ、之等以上三ツノ條件ヲ確メ得タル空洞ハ右側=66例、左側=27例アリ。

第19表(a)ハ右側ノ場合ヲ示セル者ニシテ之ニ依レバ右側前層位=アル者ハ肺門部トノ關係ヲ認メザル者多ク、後層位ノ者=於テハ關係著明ナル者多數ヲ認メ、肺野、例之上肺野=於テハ前層位ノ者=於テハ肺門部=關係無キ者多キモ、後層位ノ者=アリテハ少シク増加ヲ示セリ。

第19表(b)ハ左側ノ場合ヲ示スガ、之ニ依レバ前層位、後層位共ニ肺門部トノ關係著明ナル者多數ニシテ、肺野=就キ觀察スルモ亦何レノ肺野モ肺門部=關係深キ空洞ヲ多數有ス。以上ヨリ右側=於テハ後層=存在スル空洞ガ肺門部ト著明ノ關係ヲ有スル者多ク、左側=アリテハ右側=比シ前層=アル者モ關係著明ナル者少シク多數ナリ。(第19表a, b)

第 1 9 表 (a) (右 側)

肺 野		前 層				後 層				合 計			
		(+)	(±)	(-)	計	(+)	(±)	(-)	計	(+)	(±)	(-)	計
肺 尖 部	0	0	0	0	1	1	0	2	1	1	0	2	
上 肺 野	2	4	5	11	9	3	8	20	11	7	13	31	
中 肺 野	2	1	3	6	8	1	1	10	10	2	4	16	
下 肺 野	0	0	0	0	8	1	0	9	8	1	0	9	
肺 門 部	1	0	0	1	7	0	0	7	8	0	0	8	
合 計	5	5	8	18	33	6	9	48	38	11	17	66	

第 1 9 表 (b) (左 側)

肺 野		前 層				後 層				合 計			
		(+)	(±)	(-)	計	(+)	(±)	(-)	計	(+)	(±)	(-)	計
肺 尖 部	0	0	0	0	2	0	1	3	2	0	1	3	
上 肺 野	4	0	0	4	4	2	3	9	8	2	3	13	
中 肺 野	1	0	0	1	5	0	2	7	6	0	2	8	
下 肺 野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肺 門 部	0	0	0	0	3	0	0	3	3	0	0	3	
合 計	5	0	0	5	14	2	6	22	19	2	6	27	

第4節 主トシテ空洞ニ於ケル普通、立體兩寫眞觀察ノ比較

立體、普通兩寫眞所見ヲ比較スルニ當リ、兩寫眞ノ併用アル者ハ慢性肺結核 152 例中、94例(空洞性53例、非空洞性41例)ナレバ、之等94例ニ就キテ觀察スル時ハ、兩者所見全ク一致セル者ハ空洞性肺結核ニ23例、非空洞性肺結核ニ24例アリ。反之兩者所見ニ一致ヲ見ザリシ者ハ空洞性肺結核30例、非空洞性肺結核17例ニシテ合計47例トナリ、兩者所見ノ一致、不一致例ハ各々47例ヲ以テ相半バス。(第20表)

第 2 0 表

普通、立體 兩寫眞ノ併用アル肺結核		普通、立體寫眞 所見比較		
		兩者ノ 所見一致セル者	兩者ノ 所見一致セザル者	兩者ノ 所見一致セザル者
慢性肺結核	空洞性肺結核	53	23	30
	非空洞性肺結核	41	24	17
	合計	94	47	47

以上兩所見不一致ヲ示セル47例中、空洞ニ就キテ見ルニ、

1. 普通寫眞ニ空洞ト判斷セルニ、立體寫眞觀察ニ依リ空洞ヲ否定シ得タル者 10例
2. 普通寫眞ニ空洞ヲ認めザルニ、立體寫眞觀察ニ依リ空洞ヲ證明シタル者 16例
 1. ノ場合、即チ 普通寫眞ニ空洞ト思ハレ

テ立體寫眞ニ之ヲ否定セラレシ10例ニ就キ、其ノ臨床所見ヲ簡單ニ觀察スレバ第21表ノ如ク、體溫ハ異常無キ者多數ニシテ、又發熱アル者ニ於テハ其ノ程度輕微タリ。喀痰中結核菌所見ハ陽性ト陰性トハ各々5例ヲ以テ相半シ、赤沈反應ヲ1時間値ヲ以テ25mm以下(輕度促進)、26~55mm、(中等度促進)、56mm、以上(高度促進)ト大別セバ、中等度促進迄ヲ以テ大部分ト爲ス。

2. ノ場合、即チ 普通寫眞ニ空洞ヲ認めザルモ、立體寫眞觀察ニ依リ空洞ヲ認めタル16例ニ於ケル臨床所見ハ、不明1例ヲ除外シテ15例ニ就キテ見ルニ、體溫ハ發熱アル者 $\frac{2}{3}$ ヲ占メ、且其ノ程度モ高キ者アリ。喀痰中結核菌所見ニ於テハ15例中陽性13例ニシテ、且「ガフキー氏號數モ高度ナル者極メテ多ク、即チ1. ノ場合ニ比シ著シク相異セル所ナリトス。赤沈反應ニ於テモ高度促進→中等度促進ノ順序ニシテ前者ト亦其ノ趣ヲ異ニス。

即チ、以上ヨリ立體寫眞觀察ニ依リ空洞ヲ證明シタル場合ハ然ラザル場合ニ比シテ、臨床の所見ノ著明ナル不良ノ徵ヲ認め得ル者多キヲ知り得可シ(第21表)。又灌注氣管支(bronche de drainage)ハ普通寫眞ニ依リテハ3例ヲ、立體寫眞觀察ニ於テハ9例ヲ認め得タリ。

第 2 1 表

普通、立體 兩寫眞所見比較	體 溫			喀痰中結核菌 (ガフキー氏號數)			赤 沈 反 應 (1時間値)			合 計
	平熱	37°C~ 38°C	38°C 以上	陰性	I-V 號	VI-X 號	25mm 以下	26~ 55mm	56mm 以上	
		臨床所見 結果區分	普通寫眞 空洞(+)		立體寫眞 空洞(-)	普通寫眞 空洞(-)	立體寫眞 空洞(+)			
普通寫眞空洞(+)	6	4	0	5	4	1	2	5	3	10
普通寫眞空洞(-)	5	8	2	2	5	8	4	4	7	15

第7章 症例解説例

第1例

山○富○子, 32Lj. ♀.

診断 肺結核.

主訴 咳嗽, 喀痰.

既往歴 特殊ナルモノヲ認めズ.

家族歴 疾病ノ素因負荷ヲ認めズ.

現病歴 昭和15年4月初メ風邪感アリテ、輕度ノ發熱、咳嗽、喀痰ヲ認め、5月20日頃ヨリ頭痛ヲ加ヘタ

ルヲ以テ5月29日、當科外來ヲ診レ入院ス。

立體寫眞撮影前後ニ於ケル臨床の所見

體溫 略々平熱狀態ヲ示ス。

「ピルケー氏皮膚反應

	原液	對照	4倍	10倍
24時間	2.5	(-)	2.0	1.0
48時間	3.0	(-)	2.5	1.5

血液像所見

赤血球 436万、白血球 8200、血色素82、エオジン嗜好細胞 1%、中性多核第 I 型 28%、第 II 型 28.5%、第 III 型 11.5%、第 IV 型 1%、大淋巴球 5%、小淋巴球 18.5%、大單核球 6.5%

赤沈反應

1時間値	42mm
2時間値	69mm
24時間値	113mm

喀痰中結核菌 「ガフキー V 號陽性

胸部 R 線寫眞所見 (昭和15年6月28日)

普通寫眞所見

右側鎖骨下方外方ニ拇指頭面大ノ陰影ヲ認ム。左側ハ肺尖部ヨリ第 II 肋間腔外側ニ基底ヲ有シ肺門部ニ頂點ヲ有スル不規則作ヲ凡ソ三角形ヲ呈セル濃厚ナラザル陰影アリテ、此ノ三角形ノ略々中央ニ明澄ナル輪狀陰影ヲ認ム。

立體寫眞所見

右側肺門部陰影ハ平滑線狀ヲ示シ構造著明ニシテ且、心臟トノ間ニ間隙ヲ認メ、第 II 肋間腔外側部デ肺層中心ニ於ケル前額位平面ヨリ背側ノ方ニ偏シ、拇指頭大ノ古綿ヲチゲレルガ如キ陰影アリテ多少線狀ノ傾向認メ、且中心部ニ石灰沈著アリ、肺門部トハ直接デナク、平滑線狀陰影ヲ以テ斷續的ニ間接ニ連ル。

左側肺門部ニハ鳩卵大ニ腫大セル淋巴腺アリ、此ノ陰影ノ内半側ハ心臟陰影ト重ナリテ其ノ後方ニ存在シ、此ノ淋巴腺ト平面ヲ異ニシテ、即之ヨリ前胸壁ノ方ニ偏シタル部ヨリ肺尖部ニ向ヒ、新鮮綿織維狀陰影ノ集合ヨリ成レル其ノ幅凡ソ 1cm 位ノ陰影ガ心臟邊縁ニ沿フテ走ル。右側第 I—第 III 肋骨ニ亘リ其ノ外方デ後層ニ位シ新鮮線狀陰影アリ、肺門部トハ全ク關係ヲ有セズ。

第 2 例

彦〇啓〇, 31Lj. ♂.

診斷 肺癆及ビ内臟轉位症。

主訴 咳嗽、喀痰。

既往歴 生來虛弱ニシテ風邪ニ患リ易シ。

家族歴 結核性疾患ノ素因負荷ヲ同胞ニ證明ス。

現病歴 昭和8年3月 急性劇烈ナル腹痛アリ、直チニ醫師ニ收容セラレ急性化膿性腹膜炎ノ診斷ノ下ニ手術ヲ受ケ、約2ヶ月後治癒退院シ、間モ無ク風邪ニ患リ發熱、咳嗽、喀痰アリ。左側乾酪性肋膜炎ノ診斷ヲ受ケ治療セララル中、腹膜炎及肺結核ヲ合併シ、漸次羸瘦ヲ來シ、又咳嗽、喀痰ノ頑固ナル爲、昭和15年4月20日當科外來ヲ訪レ入院ス。

立體寫眞撮影前後ニ於ケル臨床の所見

體溫 概ネ 37°5/C~38°C ノ間ヲ動搖ス。

「ピルケー氏皮膚反應

	原液	對照	4倍	10倍
24時間	0.4	(-)	sp	(-)
48時間	0.4	(-)	sp	(-)

血液像所見

赤血球 296万、白血球 5000、血色素60、中性多核白血球 49%、淋巴球 43%、大單核細胞 7%、エオジン嗜好細胞 1%

赤沈反應

1時間値	48mm
2時間値	92mm
中等値	47mm
24時間値	145mm

喀痰中結核菌 「ガフキー號數 VII—VIII 號陽性

胸部 R 線寫眞所見 (昭和15年7月24日)

普通寫眞所見

心臟ハ左側ニ牽引セララル。

右側第 I 肋間腔ニ滲出性ノ柔キ陰影アリ外側デ濃厚トナル。

左側ハ全體ニ亘リテ乾酪性變化ヲ想像セシムル陰影ニ覆ハレ、第 I—第 IV 肋骨ニ亘リテソノ外側部ニ偏シ、幅 1.5cm 位ノ明澄ナル陰影アリ空洞ト察セララル。第 IV 肋間腔ニ水平ニ銳利ニ境界セラレ、之ヨリ以下ハ全ク構造不明ナル強キ陰影ヲ認ム。

立體寫眞所見

心臟ハ左側ニ牽引セララル。

右側肺門部陰影殆ド正常。右側肺門部デ第 II 肋間腔ノ心臟右側邊縁ヨリ小綿狀集合性陰影ガ、多ク新鮮綿織維狀陰影ト混合シテ右側第 I—第 II 肋間腔ニ擴リ、其ノ肋膜面近クニ於テ前胸壁ニ近キ肺層ニ薄キ新鮮ナル綿狀陰影ヲ作ル。更ニ之ト連絡ヲ有シテ第 II 肋間腔ノ中央及ビ第 III 肋間腔ノ稍々外側部ニ薄キ小綿狀ノ陰

影散在スルヲ認ム。

左側ハ肺尖部ノ外半分ヲ均等性ナ陰影ヲ以テ外方ヨリ之ヲ包ミ(肺尖肋膜炎), 其ノ延長ハ上肺野デ其ノ約 3cm, 下方デ凡ソ 1cm ノ厚サヲ有スル肋膜肥厚ト推察セラルル均等性ノ強キ構造不明ノ陰影トナリ肺臟ヲ外方ヨリ包ム。此ノ陰影ノ直グ内側テ肺臟ノ後層ニ位シ, 第 I 肋骨ノ下縁ヨリ第 IV 肋骨ノ上縁ニ及ブ長サヲ有シ, 幅凡ソ 2cm 位ノ細長キ壁平滑ナル大ナル空洞ヲ認ム。其ノ他ノ肺野ハ全體ニ亘リ無構造ノ陰影ヲ以テ埋メ, 爲ニ心臓ノ左界ハ殆ド認メ難ク, 第 IV 肋間腔中央ヨリ以下ニ強キ構造不明ノ陰影ヲ心臓陰影ノ後方ニ認メ, 其ノ上界ハ鋭利ニ境セラレ, 下方横隔膜トノ境界ハ不明ナリ, 恐ラク液體滯溜ニ由ル陰影ト推察サル。

剖見所見概要

體形中等, 骨格薄弱, 著シク羸瘦セル男屍, 皮膚ノ色一般ニ乾燥シ僅カニ褐調ヲ帶ブ。左下腹部ニ縦ニ長キ 9×3cm ノ癩痕ヲ認メシム。腹部ハ僅カニ舟狀ニ陥凹セリ。兩足背ニ於テ僅カニ浮腫ヲ認ム。皮下脂肪織ノ發育貧シク筋肉ノ發育亦貧シ。其色淡シ。腹壁内面ハ一般ニ平滑, 前記左下腹部ニ於ケル癩痕ニ當ル部ノ腹壁内面ト盲腸トハ強キ纖維性膜様ノ癒着ヲ營ミ手ヲ以テ剝離シ難シ。肝臓左葉, 膽嚢並ニ廻腸及上行結腸ハ左腹壁内面及ヒ膀胱ト纖維性索狀乃至膜様ノ癒着ヲ營ミ手ヲ以テ剝離シ難キ部可成リニ多シ。諸腸氣ヲ含ム事一般ニ強シ。其ノ漿膜面ハ一般ニ平滑ナルモ諸處細血管充盈シテ暗赤ノ部ヲ認ム。廻盲部ニ於テハ粟粒大ノ灰白色ノ結節諸處ニ透視シ得。腸間膜淋巴腺大迄ノモノ數個, 剖面髓様淡紅, 腹腔ヲ開クニ當リテ既ニ脾, 肝, 胃, 膵, 廻盲部, S-字狀結腸等ノ内臟位置轉錯ヲ認メ得タリ。兩腎及ヒ骨盤腔諸臟器ノ位置略尋常, 異常ノ内容物ナシ。

前縦隔 淋巴腺大豆大ノモノ數個, 剖面ニ於テ限局性病竈ヲ認メズ。心, 肺共ニ位置轉錯ヲ認ム。胸腺殆ド實質ヲ認メシメズ。

左胸腔 纖維性膜様ノ癒着ヲ以テ腔全ク閉鎖シ手ヲ以テ剝離シ難シ。右胸腔其ノ外間及ヒ後壁ノ一部ヲ除キ纖維性索狀ノ癒着ヲ強ク營ミ肺尖部ニ於テハ剝離難。心臓僅カニ左ニ偏ス。195g, 死者ノ手拳ニ比シ略等大, 外面一般ニ平滑, 硬度軟, 筋内ノ色褐ヲ帶ビテ透徹ノ性少ナシ。大動脈弓, 肺動脈嚢ニ及ブ同錐部ノ方向ハ常ト全ク逆ノ位置ヲトレリ。

左肺臟 大サ小, 外面癒着ヲ爲其性状ヲ詳ニシ得ズ。且葉ノ數亦明ラカナラズ。硬度著シク鞏ナルモ下

部ニ於テ小兒頭大ノ氣ヲ含メル腸ニ觸ルル如キ感有ル部アリ。上部外側ニ大サ雞卵大ノ同様ニ觸ルル部アリ, 剖面肋膜著シク肥厚ス。最モ厚キ部ハ其ノ下部ニ於テ 1.0cm, 肺剖面ハ上部ハ殆ド空洞化シ僅カニ肺實質ヲ認メシムルノミ。空洞壁ハ比較的平滑ニシテ硬ク, 帶紫綠色乃至暗赤色ヲ呈シ内ニ暗赤乃至黃綠色ノ泥狀物ヲ容ル。空洞ハ大ナル氣管支ト交通ス。肺實質ハ帶紫暗赤乃至石盤色ヲ呈シ次粟粒大ヨリ米粒ニ至ル灰白色乃至灰白黃色ノ結節ヲ認メ, 一部中央部乾酪化セルモノアリ, 尙其間ニ小ハ半米粒大ヨリ, 大ハ豆大ニ至ル前記ノ如キ空洞ヲ多數認メ, 其ノ或物ハ互ニ交通ス。下部側面ニ於テハ殆ド小兒頭大ノ腔ヲ認メ剔出ニ當リ外壁ニ物質缺損ヲ示セリ。内ニ黃綠色粘稠ナル液狀物ヲ多量ニ容レタリ。其ノ外壁ハ著シク硬キモ内壁大部ハ極メテ粗糙ニシテ内側下部一部ニ於テハ可ナリニ深キ陥凹ヲ示シ肺實質ニ直接セル部存ス。肺實質ハ上部ニ於ケルモノト相均シ。氣管支内面暗赤色ヲ呈ス。肺門部淋巴腺豆大ノモノ數個, 剖面一般ニ黑灰白, アルモノニ於テハ半米粒大迄ノ結節ヲ認メ得。

右肺臟 大サ大, 二葉ヨリ成ル。兩葉間ハ纖維性膜様ノ癒着ヲ營ム。上葉外面ハ前記癒着ヲ爲詳ニシ得ザルモ色灰白淡紅色乃至石盤色, 下葉下部ハ帶紫暗赤, 硬度上葉ハ彈力性軟, 下葉ハ不平等ニ鞏ニ觸ル。剖面上葉ハ灰白淡紅ニシテ次粟粒大ヨリ粟粒大ノ灰白乃至灰白黃色ノ結節存シ, ソノ或ルモノハ相集リテ三葉形ヲ呈ス。下葉ハ帶紫暗赤ニシテ肋膜面ヨリ膨隆シ, 大サ粟粒大ヨリ半米粒大ノ結節多數認メ, 相集リテ三葉形ヲ呈スルモノ亦存ス。斯ル結節ハ一部透明ナルモ大部分ハ中心乾酪化シ黃味ヲ帶ブ。結節ノ數ハ下葉下部ニ至ル程少シ。氣管支内面平滑色淡シ。肺門部淋巴腺大豆大迄ノモノ數個, 剖面ニ於テ半米粒大迄ノ結節ヲ認メ得ルモノアリ。

左頸部ニ大サ豆大ヨリ拇指頭大ノ淋巴腺數個認メ, 剖面黑灰色ニシテ大サ粟粒大ノ灰白色略透明ナル結節ヲ認ム。

氣管及喉頭 會厭軟骨後面ニ於テ大サ米粒大ヨリ小指頭大ニ至ル或ハ淺ク或ハ深キ物質缺損ヲ認メ, 可ナリニ深キモノハ内ニ灰白紅色粘稠ナル物質ヲ附シ其縁ハ隆マリ掘鑿狀ヲ呈シ其ノ底ハ粗糙ナク, 會厭軟骨後面ノ物質缺損ハ最モ大ナリ。粘膜ハ諸處細血管充盈シテ紅シ。咽頭内面平滑, 舌變無シ。扁桃腺剖面ニ變ヲ見ズ。舌根部ノ淋巴裝置ノ發育良好, 食道粘膜平滑色淡シ。

甲状腺 140g, 峽部ノ形成ヲ缺ク。剖面膠様ヲ呈ス。

腹部臓器ハ大動脈ヲ連絡セルモノ剔出シ何レモ其位置ニ於テ檢ス。

脾臓 大腸及腹壁内面ト纖維性ノ癒着ヲ營ミ手ヲ以テ剝離シ得。盤上ニ置クニ細緻ノ狀ヲ呈ス。大サ12.0×6.0×3.0, 色帶紫暗赤, 硬度軟弛緩ス。剖面帶紫暗赤, 脾質ハ被膜ヨリ僅カニ膨隆シ刀ヲ以テ磨スルニ暗赤色ノ泥狀物ヲ附ス。脾材認メラルルモ濾胞ハ認メ難シ。左右輸尿管走行大サ尋常, 内面ニ變ヲ見ズ。

左右腎臓 大サ左 12.0×7.0×2.0 右 10×5×1.5, 外面平滑帶紫暗赤色, 小腎ノ像認メ難キモ星芒靜脈ハ分明, 硬度尋常, 剖面暗赤兩質ノ境界分明, 限局性病竈ハ認メ得。腎盂ニ異常ヲ認メズ。副腎剖面兩質ノ境界認メラル。膀胱内面平滑, 梁柱ノ像ハ分明ヲ缺グ。攝護腺大サ, 形態, 剖面ニ變ヲ觀ズ。直腸粘膜平滑。

睾丸 左 8.1g, 右 8.5g, 剖面ニ變ヲ觀ズ。膽道通ズ。肝臓全長 26cm, 外面前記癒着ノ爲粗糙, 色黃味ヲ帶ブ。硬度軟弛緩ス。剖面色淡ク黃味ヲ帶ブ。小葉ノ像認メ難シ。切口ニ於ケル膽管, 血管ノ狀ニ異常ナシ。膽嚢内ニ深綠色ノ膽汁ヲ容レ, 内面同色ニ染着ス。網様ノ像分明, 異常ノ内容物ナシ。

胃粘膜一般ニ平滑, 色淡キモノ一般ニ腫脹セル觀アリ。小彎ノ部ニ於テハ細血管充盈シ; 樹枝狀ニ暗赤色ノ斑ヲ呈ス。十二指腸著變ヲ見ズ。脾臓全長 9.0cm, 硬度尋常, 剖面分葉ノ像分明。

腸 小腸及大腸ノ諸處ニ於テ刀割ヲ加ヘテ内壁ヲ檢スルニ粘膜一般ニ平滑, 色淡ケル共迴盲部ニ於テハ細血管充盈シ色暗赤色ヲ呈シ米粒大ノ淺キ物質缺損數個認ム。斯ル物質缺損ノ邊緣ハ僅カニ隆マリ, 底ハ比較的平滑ニシテ暗赤色ヲ呈ス。蟲様突起ハ缺除ス。

大動脈幅胸部 4.0, 腹部 3.5, 分岐部ノ上 3.0cm。

腦 1506g, 外面剖面ニ變ヲ見ズ。腦下垂體 0.5g。

並理解剖上診斷

全内臟轉錯

Situs inversus totalis

左慢性肺癆

Phthisis chronica pulm. sin.

右細葉性肺結核症

Tuberculosis acinosa pulm. dext.

氣管及喉頭結核症

Tuberculosis tracheae et laryngis

結核性腸小潰瘍形成

Ulcerata tuberculosa parva intestini

第8章 總括並ニ結論

我大里内科入院及ビ外來患者中, 慢性肺結核ニ該當スル者ニレ線立體寫眞撮影ヲ行ヒ種々檢索ノ結果次ノ結論ヲ得タリ。

1. 陰影ノ種類ハ

- A. ……無構造
- B. ……新鮮綿纖維狀陰影, 新鮮綿狀陰影, 小綿狀集合性陰影
- C. ……古綿狀陰影, 結節狀陰影
- D. ……硬化結節狀陰影, 並ニ線狀陰影ニ大別スル事ヲ得。

2. 普通寫眞所見トノ比較ニ依レバ, 陰影Aハ乾酪性, Bハ滲出性, Cハ増殖性, Dハ硬化型ニ大體一致スルモノト認メ得。

3. 陰影ト肺門部トノ關係ヲ觀察スルニ, 關係著明ナル者 68.6%±3.01%, 關係著明ナラザル者 10.4%±1.97%, 關係全ク無キ者 20.9%±

2.62%ニシテ肺門部トノ關係ヲ有スル者多數ナルモ, 之ヲ陰影種類ニテ見ル時ハ新鮮ナル病變ト思惟セラル、Bニ包含セラル、陰影ニ著明ナリ。又以上ノ關係ヲ空洞ノ有無ヨリ觀察スルニ空洞性肺結核ニ屬スル陰影ハ非空洞性肺結核ニ屬スル者ヨリ肺門部トノ關係著明ナル者多數ナルヲ認メ得タリ。

4. 陰影種類ト赤沈反應トノ關係ヲ見レバ赤沈反應ノ促進ト陰影ノD→C→B→Aノ順序トハ大體ニ平行ヲ示シ, 之等ノ間ニハ中等度ノ正ノ相關ノ存在スル事ヲ統計學的ニ證明シ得。

5. 更ニ其他ノ臨床所見トノ關係カラモ, 立體寫眞學的分類ニ基ク陰影ハA→B→C→Dノ順序ニ良性化スルモノノ如ク推察サル。

6. 空洞周圍ノ陰影ハ新鮮綿狀系統ニ屬スル陰影ガ極メテ多數ヲ占メ, 空洞ノ肺層ニ於ケル

位置ハ、肺層中心部ニ於ケル前額位平面ヨリ前胸壁ノ方ニ偏シ存在セル者 26.8%±4.49%、背側ノ方ニ存在スル者 73.1%±4.49%ニシテ後層ニ多數ヲ認メ、又空洞ト肺門部トノ關係デハ、兩者ノ關係著明ナル者多シ。

7. 慢性肺結核 152 例中、立體、普通兩寫眞ノ併用アル者 94 例ニシテ、之等ニ就キ兩者所見ノ比較ヲ行フニ、所見一致セル者 47 例、一致セザル者 47 例ニシテ其ノ數相半シ、不一致例ニ就

キ臨床的所見トノ觀察ヲ行フ時ハ、立體寫眞所見ニ其ノ適合性ヲ認メル事多シ。

8. 最後ニ慢性肺結核ノ立體寫眞解説ノ例トシテ、非空洞性肺結核ノ 1 例及ビ剖見ノ機會ヲ得タル空洞性肺結核ノ 1 例ニ就キ記載ヲ施シ、參考ニ資センメタリ。

恩師大里教授ヨリハ終始御懇篤ナル御指導ト、御多忙中ニモ拘ズ御丁寧ナル御校閲トヲ賜ル。稿ヲ脱スルニ臨ミ、衷心感謝ノ意ヲ表ス。

必要ナル文獻ハ大凡前報迄ニ掲ゲ盡シタルヲ以テ本篇ニ於テハ之ヲ省略ス。